

沖縄の白い砂浜で、アサガオのようなピンク色の花に気づかれた方もいるだろう。砂の上を長く這うこの蔓性の植物は、軍配のような形の葉を持つことから、グンバイヒルガオと呼ばれている。分布域は驚くほど広く、東南アジアの他、南太平洋の島々やアフリカ、さらには沖縄からはほぼ地球の裏側にあたる南米ブラジルのビーチにも分布している(図1)。動物と違い自分では移動できない植物がこれほど広く分布できた



図1 グンバイヒルガオの分布域
世界中の熱帯海岸に分布し、種子は水に浮く。

のはどうしてだろうか？ その秘密は種子にある。グンバイヒルガオの種子は硬い種皮に覆われていて、中に大きな空間があるため水に浮くことができる。この種子が海流で運ばれることで、極めて広い分布域を獲得できたと思われる。我々の実験から、グンバイヒルガオの種子は、発芽能力を保ったまま数年間水に浮い

地球の裏側で 同じ花に出会う不思議

種の維持と分化はどう決まる

千葉大学
かじた ただし
梶田 忠
一九九四年東北大学大学院理学研究科博士課程修了。理学博士。同研究室の高山浩司博士と共に、グンバイヒルガオやオオハマボウなどさまざまな汎熱帯海流散布植物の種分化を探っている。

二つの研究の重なりを見る

多様な生きものが続いていくには？

植物が子孫を残すために広がる時、一般的には海は障壁となります。生命誌の楠見さんは、偶然に海を渡った末に誕生した小笠原諸島固有のイチジク属植物の種分化を解明しようとし、千葉大学の梶田さんは、海を渡る種子をもつグンバイヒルガオが世界中で一種として保たれている現象を探っています。海を渡る二つの戦略から多様化の歴史が見えてきます。

